

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	さくらのお家・よしだ
(ユニット名)	ゆったり
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県 鹿児島市 東佐多町 269番地 2
記入者名 (管理者)	山下 マチ子
記入日	平成 20 年 6 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		・暖かい家庭的な雰囲気作りに努めます。 ・その人の個性が活かされるよう生活の援助をさせていただきます。 ・住み慣れた町で文化的な生活をして頂きます。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		新しい入職者も又、他の職員も理念を共有できるように、毎日の申し送りやミーティングで確認合っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		行事などあった場合、参加の声掛けをしたり、自ホームが栽培している畑を間に挟み、野菜の生育具合や、近況の話など行い、日常的な付き合いが出来るように努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		・商工会主催の「夏祭り」に寸劇で参加することが出来た。 ・旧吉田町主催の「文化祭」に出展参加できた。 ・自治会の「いきいき・地域サロン」の行事に参加することが出来た。 ・地域の主催する「鬼火炊き」に参加出来た。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「いきいき・地域サロン」に参加し、その中で血圧測定や介護予防運動など、地域に住む高齢者の健康増進の一役を担うことができた。		今年の目標は地域の行事にスタッフ全員が関わられるように取り組む事になり、一歩前進できることを確認できている。
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を充分理解し、改善見直しを行っている。		評価結果を回覧し、必ず目を通してしている。 また、法人トップにも報告し、理解を得ている。 法人内の主任会研修にも、この外部評価結果を議題に出しステップアップの目標にした。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の席上にて、「利用者の方々の表情がとても良く、この事がスタッフの行動の全てを語っています。」…とさせて頂いている。		運営推進委員会議の中で、常に意見交換が出来るような雰囲気を作り、良きアドバイスを頂ける様、配慮している。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者を中心に人つながりでホームの見学や研修等が自主的に増えてきており、サービスの質の向上につながっている。		これからも無理のない様に続けて行く。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見人を受任するなど、知識があり、また、他スタッフによる質問などに答えることが出来る。		研修などあったら、スタッフも参加し、スキルアップに努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連のニュースなどあれば、スタッフ間で議論するなどしている。		生活援助する中で、気がつかず言葉による虐待が発生する可能性があった場合、お互いに注意を促せるよう、雰囲気を作っている。…と思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の変更などあった場合、十分に説明し、同意を得て契約を結んでいる。</p>	<p>不安や疑問については充分説明を行っている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の生活の中から、気づいたり、感じたりしている。不満や苦情を第三者委員並びに管理者や職員は真摯に受け止め、解決に結び付けている。</p>	<p>洗濯物を持って行く時・お茶を持って行くとき・掃除をしに行く時・着替えを取りに行く時・・・など等、各居室に行く機会を利用し、利用者の気持ちを早めに気づくように配慮している。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態、その他の事は定期的に、又は折りに触れ、状況報告している。</p>	<p>結婚退職・出産退職などあり、報告させて頂いた。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回以上家族会を設け、意見などを聞き、運営に反映されている。また、運営推進委員会にも家族が参加している。</p>	<p>ホーム内の各所に苦情窓口案内所を張り出したり、家族が来られた時、苦情を言い易い雰囲気を作るなど、申し合わせている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関するスタッフの意見や提案を聞き、必要な場合、会議の議題に出し、それを運営に反映させている。</p>	<p>管理者は毎日のミーティングや申し送りなどで、意見や提案を聞く機会を設けている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>他病院受診・定期検診・またはその他の理由で緊急な勤務調整が発生した場合など、柔軟な対応をしている。</p>	<p>家族からの急な病院受診依頼など、その都度状況に応じた勤務調整に努めている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者が一名いたが、利用者へは日常の会話の中で伝えていて、ダメージを防ぐ配慮をした。</p>	<p>今後も離職や異動がある場合は、前もって伝えたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員に対するオリエンテーション・研修のマニュアルがあり、計画育成できるが、その他の職員には計画を立てて進めていくことのシステムがない。		人員に制限があり、全員に同じ研修を…と言う事はできないが、研修を受けた記録により、平等にまた、適宜に研修を受けてもらっている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の方々と「地域ケア交流会」を立ち上げ、定例会を行いサービスの質向上に反映させている。		運営者は管理者に「様々な地域の行事に参加」する様に…の許可を出している。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内での行事の中に焼肉会やドッジボール大会・バレーボール大会などあり、スタッフのストレスの軽減を図るなど、環境作りに取り組んでいる。		月一回の法人内全体ミーティングの時など、お茶菓子の配慮や運営者の心温まるメッセージ発言があり、「運営者の安心できる存在感」を示してくれている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課や半年ごとの目標設定の指導など、向上心を持つような取り組みを行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用にいたるまでの間には必要最低限の情報・要望を聞くに留まっている。		利用初期の段階ではお互いの信頼関係作りに努めているが、それ以前では機会がない様に思われる。利用の際には、なるべく御本人にホームを見て頂けるようお願いしている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族との信頼関係作りは蜜に行う努力をしている。		初期の段階ではプライバシーの深い部分は聞くことは出来ないと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。他の行政サービス利用の相談を支援したり、可能なことは行っている。		実際、重心医療受給者証の手続き相談など発生し、また、その他の手続き相談を受け対応し、御家族に感謝された経緯がある。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	行っている。サービス開始の前にホームの雰囲気を見て頂いたり、紹介をしたり、安心して頂ける様、配慮している。		御家族が、他病院入院中の方をホームまでお連れして雰囲気を見て頂いた事例もある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の心はいつも「利用者とは家族も同然」との思いで接しているし、また、「人生の先輩である」との気持ちでも接している。		喜怒哀楽を共にし、傾聴しているが、本人から学ぶ姿勢を意識的に持っていれば、教えられる事は数多くある。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	している。 家族とは常に連絡を取り、情報を交換している。		家族の方が来られた時など、積極的に対話し、喜怒哀楽を共にできるよう、又、利用者と一緒に支えていける様に努力をしている。また、スタッフ間で情報を共有している。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	している。 お互いの良い所に触れ、本人と家族の関係作りを意図的に支援している。		キーパーソンを中心に、御家族間の都合など理解し、プライバシーに配慮している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	している。 ドライブや墓参り・近所の買い物など、馴染みの場所や友達など意図的に行ったり、対話したりしている。		3月の誕生会では利用者の方のお友達に踊りをお願いし、利用者の方自身もたいへん満足して頂いた。その後、「私の友達に来てくれた」と何回も言われ、自己実現が出来て良かったと思っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングで集う機会を多くしており、それが、自然な形で生活に出ている。		特に夕食後のリビングでの団欒は、利用者同士の自由な対話があり、ほのぼのとした雰囲気を感ずる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	声かけや挨拶は職員全体で行い、ホームの窓口を広げている。		お見舞いや様子伺いの電話やホーム外の場所で会った時の声かけなど、行っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や暮らし方を尊重し、その人らしく生活できるよう支援している。		帰りたい方には家族との連携を取り、逆デイサービスを行ったり、きんかんちぎりに行ったり、別な形を取り、工夫している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	信頼関係を築く中から職員同士でも情報交換をし、全体で把握できるよう努めている。		面会時家族との情報交換 利用者との対話の中でサービス利用の経過の把握に努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタルチェックを行い、それに応じ、無理のない生活をして頂いている。		一人・一人の潜在する能力をまだ出し切っていないように思われる。出来ること、したいことに、なるべく、答えられるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や医療との連携を密にとり、本人がより良く生活できるように介護計画に反映させている。		遠方にいる家族にも月に一回以上は手紙や電話で近況報告し、介護計画も郵送しお知らせしている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない変化が生じた場合、毎日のミーティングやカンファレンスの中で、新たな介護計画に反映している。		医師・家族・看護師・介護職員・・・この4者の同席のカンファレンスが必要と判断された場合、期日を約束し、数回の会議を行った経緯がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入し、また、情報を共有し、介護計画の見直しに活かされている。		ミーティング・申し送り簿の中で確認し、サインもし、情報漏れのない様に気をつけている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の、その時々々の要望に応じる用意はあるが、特に目立った大きな要望はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	している。		誕生会や母の日・敬老会など、行事の際、ボランティアさんに来て頂いている。 また、消防・民生委員さんとも連携をとっている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	している。		地域のサービス事業者と連絡を取り、分からないことなど発生した場合、相談している。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要に応じたケアマネジメントが発生した場合、地域包括支援センターと協働する用意がある。		地域包括支援センターに必要に応じ出向いているが、まだ、協働する機会・環境がない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向のかかりつけ医を尊重し、適切な医療を受けられるよう支援している。		定期的なかかりつけ医の訪問があった場合、利用者の近況の情報を提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医・・・ではないと思われるが、認知症に理解を示す医師がバックにいると感じている。		職員が認知症に対してディスカッションする雰囲気があり、意見交換し、支援に繋げている。また、法人内で研修会を行ったりしている。法人内で認知症の専門医はいないが、必要に応じ他機関の専門医を受診している。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日利用者の状況報告をし、週一回の看護師の定期的な訪問を受けるなど、日常の健康管理・医療活用の支援をしている。		定期的な看護師の訪問を受けている為か、利用者の方々とも良い関係になっていると思われる。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に面会をし、状態を把握している。家族とも良く連絡を取り合っている。		スタッフが自主的にそれぞれ面会に行き、情報を共有している。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・医師・看護師・スタッフ間で、重度化した場合や終末期の場合、必要に応じ会議を開き、対応している。また、医師より、家族へ状態の説明や助言など行っている。		終末期の利用者の方が実在したが、家族や医師・スタッフとの連携をとり、その日を迎えることができた。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	定期的又は必要な時に職員全体でカフェレンスを実施・・・その中で医師や看護師などに助言を頂いている。		状態の変化に応じ、家族の理解の下、在総診の検討など行っている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が環境の変化に混乱が生じないように、関係者との連携をとっている。		必要があれば、家族の了解の下、ケアプランなど情報提供している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人・ひとりのプライバシー誇りに配慮した記録を行っている。	利用者との信頼関係が深まる中で、言葉掛けに慣れが見られることが時々あり、朝礼などで、お互いに反省することがある。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意向に合わせた働きかけをし、自己決定・自己実現できるよう配慮している。	一対一の対話に心がけ、本人の心の変化を早めを感じるように接している。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの過ごし方を大切にし、その日の過ごし方を話し合い、希望に添った生活をして頂けるよう、配慮している。	御自分から希望を意思表示されない方には～であろう…事を想定して支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お化粧の好きな方には化粧品の購入・準備をし、また、馴染みの美容院や床屋を利用できるよう支援している。	良くお似合いの洋服を着ていたり、コーディネートが良かったり、その他色々な事に対話のきっかけを見つけ、コミュニケーションにつなげている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人に合わせ、出来る範囲のものをして頂き、持っている力を引き出せるよう、配慮している。また、季節感を味わえるように、出来るだけ季節の物を食卓に提供している。	台拭き・御茶入れ・おにぎり作り・ゆで卵の殻むき・配膳…その他、できる所をして頂いている。また、畑で収穫した食材が食卓に上がった時、皆さんにお知らせしている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的とは言えないが、誕生会やその他イベントの場でお酒などを準備し、楽しんで頂ける環境を作っている。	日常会話の中で、昔良く食べた物が話題になると、すぐ用意し、話題作りの一助にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>お一人・お一人の排泄パターンを把握するよう努めて、気持ち良く排泄できるよう支援している。また、失敗してもさり気なく、速やかに対応している。</p>		<p>声かけにて誘導したり、また、排泄のその後は必ず清拭タオル(蒸しタオル)を使用し、いつもさっぱりと気持ちよく生活できるよう努めている。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴の時間はその方に合わせ、その方の方法で支援している。</p>		<p>・一日おきに入浴すると決めている人 ・シャワー浴が良いという人 ・入浴直前に言わないで、昨日から言ってよ…と言う人それぞれです。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を大事にし、その人のペースに合わせて、安眠や休息の支援をしている。</p>		<p>個々に体調管理をし、無理のない生活を送っていただけるように、配慮している。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>お一人・お一人の生活歴に配慮した支援をしている。</p>		<p>利用者同士が声を掛け合い、歌を歌ったり、自主的にホーム内の散歩やゲームなど、楽しんでいる。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つことは社会人として普通の事と捉えている。また、使用することにも支援している。</p>		<p>所持金については家族とも連絡を取っている。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>希望される場合などは出来るだけ希望に添えるよう配慮したり、また、職員の方で意図的に声かけし、戸外へ出かける機会を設けている。</p>		<p>ホームから見える川や田んぼや山など…ホームの庭を散歩するだけでもすがすがしくなるので、天気の良い日は散歩に誘っている。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ドライブや足湯など、可能な限り外出する機会を設けている。</p>		<p>体調の不安がある方は家族にも声かけし、同行して頂いている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれに応じて電話の対応をしたり、希望があれば手紙の援助をしている。		手紙を書いたり、日記を書かれる方には筆記用具箱を用意し、利用してもらっている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族やなじみの人の訪問があった場合、職員一同、心から迎え入れ、すぐお茶を入れるなど、居心地良く支援している。		家族に必要ながあれば、泊まっていただくこともある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束廃止委員会を設けており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		以前は家族の了解の下、身体拘束を必要とする方がおられたが、現在は不要となり、身体拘束は実施していない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はもちろん、玄関に鍵を掛けたことはない。また、門も昼間はいつも開いている。		夜は戸締りを行っている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1人1人のプライバシーを尊重しながら、安全・安心な生活ができるよう常に目配りしている。		夜間も一時間おきに巡視することで、安心・安全に配慮している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要な物を自然な形で置ける様配慮している。状態に応じて少しの変化も話し合い、危険防止に努めている。		利用者のかたの生活の変化に応じて常にカンファレンスを行い、職員同士、同じ意識で物品の保管管理に携わっている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々に合わせた事故防止対策を行っている。		年2回の防火・防災訓練を実施している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備え、基本的な流れをマニュアル化し、その方法をスタッフルームの壁に張り出している。		個々に体調管理をし、無理のない生活を送っていただけるように、配慮しているが、初期対応の訓練は定期的に行うことができていない。(課題である。)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練などを行い、利用者が安全に避難できる場所など、考えている。		近所の方が「我が家は高台にあるから、いざとなったら、逃げなきゃんせ」と言って下さっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や電話・その他手紙などで、利用者の状況を報告してリスクなどについて家族に説明している。		家族会などでもリスクについて説明をしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療連携を密に取り、毎日のバイタルチェックを参考に体調の発見や異変の発見に努めている。また、必要があれば、速やかに対応している。		毎朝、協力医療機関へ連絡する体制を整えており、周知徹底の為の記録もしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方された薬について毎回確認している。また、用法・用量・副作用など、医師の指示の下、または処方箋に書かれた内容にて、職員全体で確認している。		薬の管理には徹底した2重・3重の確認体制を整えている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の人には、繊維性の食物(からいもなど)を摂って頂けるよう献立の中やおやつに加え、適度な運動(散歩など)を誘導したりして、排便を促すよう支援している。		蒸しタオルをお腹に当てて、マッサージするのも効果的!
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけにて一緒に洗面所に立ち、口腔ケアの援助をしている。		自力にて出来ない方には、ハミングパッド(口腔ケアブラシ)などを使用し、丁寧に食物残渣を取り除いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人・一人、食事や水分の量など記録し、把握に努め、職員間で情報を共有している。		食事量の不足が感じられる方には申し送りの中で、気に掛け、おやつの時間などに不足の分を補えるように努めている。 また、アレルギーのある方には代替を用意している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会を設置し、それぞれのマニュアルを作成し、予防の為に情報を共有している。		ノロウイルス感染予防の為、毎日、手摺やドアノブなど、消毒を実行した。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事当番のスタッフが必ず食材の賞味期限に目を通し、安全な食材の管理に努めている。		台所用器具など毎日掃除に努め、換気扇の中なども常に清潔を保つよう心掛けている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門は開放し、玄関周りも花壇を置き、明るい雰囲気作りに努めている。		毎年ツバメがやってきて、2～5個の巣を作り、近所の方との対話作りに一役も二役もかっている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、廊下には写真などを貼ることで明るい生活の場を作っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて利用者同士で話をする場はあるが、一人になれる場所が居室のみになっている。		ハード面で無理があるが、気の合った利用者同士でリビングでの対話はよく見かける。また、職員はそのときは無理に中に入らず、見守っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を自宅から持ってきて、部屋にしつらう事で、居心地の良い環境作りが出来ていると思われる。		それぞれ、思いのままに道具を置き、生活されている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替え、室温計、加湿器、消臭剤など利用し、気持ちの良い生活が出来よう支援している。		フィルター掃除など定期的に行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、安全な環境になっていると思われる。		入浴用リフトを設置し、身体機能に応じた援助体制を整えており、安全な環境になっていると思われる。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立につながる環境作りに努め、常に見守り、適切適宜、支援している。		トイレや部屋までの動線に案内紙を壁に貼り、失見当識障害を予防をしたり、部屋も分かりやすいように紙に張り出したり、混乱を防ぐ援助をしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダが多くあり、それが活かされていると思われる。		庭にて大きなテントを設置し、昼食を摂ったり、畑の育ちや花などを楽しんでいる。また、時々、おやつ時間も庭に出て、雰囲気の変化を楽しんでいる。ボール遊びなど、レクリエーションも楽しんでいる。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「さくらのお家・よしだ ゆったり」のユニットでは、利用者の方々が「生き生きと、日々健やかな楽しい暮らし」の理念の下、穏やかに生活して頂けるよう気配り、援助させて頂いております。特に力を入れている点ですが、季節を大切に！大切に！と言う事に心掛けております。ちまき作りやらっきょ漬け、梅干作り、酢味噌作り、などはもちろんですが、節句・お節作り・など等・・・他のグループホームも行っていると思いますが、昔から継承されている行事ごとを大切にしております。この事が、回想法にも繋がり、利用者の方々が、嬉々として、積極的に参加して下さっている様子が良く分かります。それと、庭がとても広いことがアピールできます。広い庭で運動会や芋煮会、夕涼み会など行い、利用者の方々に、ホーム内とはまた違う雰囲気、味わって頂いております。それと、とても景色が良い所です。365度の大パノラマのような風景に、山や川、田んぼの様子に心が和みます。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	さくらのお家 よしだ
(ユニット名)	のんびり
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市 東佐多町 269番地2
記入者名 (管理者)	坂口祐二 (主任)
記入日	平成 20 年 6 月 29 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いきいきと日々健やかに楽しい暮らしをという理念に基づいてその人らしく生活していただいている。	暖かい家庭づくりにつとめます 能力が生かされる生活をしていただきます 住み慣れた町で文化的な生活をしていただきます
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開所5周年を迎え、初心にかえり、理念を共有し実践に向けて取り組んでいます。	新しい入職者も又、他の職員も理念を共有できるように、毎日の申し送りやミーティングで確認しあっている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所は、(理事長、理事・など)は、家族会などに参加し、理念の浸透に力をいれている。	事業所は、家族会など、積極的に参加しているが、これからも地域の人々に理解して頂けるような活動をしています。地域参加等参加、2ヶ月に1回運営推進委員会を行っています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩などしている近所方や学校へ行く子供たちなど積極的に挨拶や言葉かけなどおこなっている	行事など参加の声かけおこない、日常的な付き合いが出来るよう努めている。時折近所の方が入居者さんとの会話に来てくださることもあります。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度は、特に活発に自治会・地域活動を行い、交流を深めることが出来た。	・商工会主催の「夏祭り」に寸劇で参加することが出来た ・旧吉田町主催の「文化祭」に出展参加が出来た ・自治会の「いきいき地域サロン」の行事に参加することができた。 ・地域の主催する「鬼火焚き」に参加できた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域サロン、夏祭り、文化祭等に参加することが出来た</p> <p>に開かれたホームである様に話しをしている。</p>		<p>地域ケア交流会と言うボランティア団体に参加しており地域貢献につとめている。</p>
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価の意義を充分理解し改善見直しを行っている。</p>		<p>評価結果を回覧し必ず目を樋している。また法人トップにも報告し、理解を得ている。</p> <p>法人内の主任研修会にもこの外部評価結果を議題に出しステップアップの目標にした。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員会の席上にて、「利用者の方々の表情がとても良く、この事がスタッフの行動のすべてを語っています」・・・と言っている。</p>		<p>運営推進委員会議の中で、常に意見交換が出来るような雰囲気をつくり良きアドバイスを頂けるよう、配慮している。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者を中心に人つながりでホームの見学や研修等が自主的に増えてきており、サービスの質の向上につながっている。</p>		<p>これからも無理のない様に続けて行く。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、成年被後見人を受任するなど、知識があり、また他スタッフによる質問などあったら、その質問に答えることが出来る。</p>		<p>スタッフも研修等の機会があれば、学んでいきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会が少ないが事業所内で虐待が見過ごされないよう身体等に変化がないか注意を払い防止につとめている</p>		<p>高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、参加していきたい。高齢者虐待に関する講演会などに参加しています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前、契約の変更などの十分な説明を行い、御家族などの不安・疑問点をお聞きし、理解納得していただける様に努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で利用者本人が意見、不満などがスムーズに表れやすいように環境作りに心がけている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回もしくは、必要に応じてその都度状況を報告している。</p>		<p>家族からの問い合わせ等にも直ぐに対応出来る様に努めています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回以上家族会を設け、意見などを聞き運営に反映されている。</p>		<p>苦情相談窓口等の案内を掲示したり、家族がスタッフに声をかけやすい雰囲気作りにつとめている</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者は、月4回は、来ホームし、職員の意見などを聞く姿勢を持っている。</p>		<p>管理者は、毎日のミーティングや申し送りなどで、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出、受診、その他緊急な勤務調整が発生した場合など柔軟な対応をしている。</p>		<p>その都度状況に応じた勤務調整に努めている</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者に関しては日常会話の中でさりげなく伝えてダメージを防ぐ配慮をした。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新職員に対するオリエンテーション・研修のマニュアルがあり、計画育成できるがその他の職員には、計画を立てて進めていくことのシステムがない。</p>		<p>人員に制限があり、全員に同じ研修を・・・ということ は、出来ないが研修を受けた記録により、平等にまた適宜に研修を受けてもらっている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者の方々と「地域ケア交流会」を立ち上げ、定例会を行いサービスの質の向上に反映させている。</p>		<p>運営者は、管理者に「様々な地域の行事に参加」する様に・・・の許可をだしている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内での行事の中に焼肉会やバレーボール大会などあり、スタッフのストレスの軽減を図る環境作りに取り組んでいる。</p>		<p>月1回の全体ミーティングの時等、お茶菓子の配慮や運営者の心温まるメッセージ発言があり、「運営者の安心感のある存在」を示してくれている</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課や半年ごとの目標設定の指導など、向上心をもてるような取り組みをおこなっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用に至るまでの間には、必要最低限の情報・要望を聞くに留まっている</p>	<p>利用初期の段階では、お互いの信頼関係作りに努めているがそれ以前では、機会が無いように思われる。利用に到るまでには、会う機会は、多くない。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族との連絡・信頼関係作りは密に行う努力をしている。</p>	<p>初期の段階ではプライバシーの深い部分は、聞くことは、出来ないと考えている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>おこなっている。他の行政サービスの相談を支援したり、可能なことはおこなっている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>さりげなくお誘いして無理強いのないよう本人様のペースで徐々に馴染んで頂くようつとめている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>その方の生活史を大切にしながらその方に向き合えるように努めている。</p>	<p>喜怒哀楽を共にし本人から学ぶ姿勢をもつように努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、常に連絡を取り、情報を交換している。		職員から積極的に対話するように努めている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に誕生会等参加していただき本人と家族からの情報を基により良い関係が築けるよう支援している。		お互いの良いところに触れ、本人と家族の関係作りを意図的に支援している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブに行ったり、馴染みの人に会ったりする機会を作っている。		ふるさと訪問・ドライブ・墓参りなど
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	世話役的な利用者の協力の基、自然に利用者がリビングに集う形ができています		お茶・散歩・配膳、下膳・食事の声かけなど

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	声かけや挨拶は、職員全体で行い、ホームの窓口を広げている。		お見舞い・様子伺いの電話やホーム外で会った時の声かけ。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人の希望、意向をくみとり希望にそえるようにつとめている。		本人本位の支援をおこなっている（ふるさと訪問・墓参り・鍼灸・買い物など）
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族からの情報収集につとめている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタルチェックを行い体調の変化にも気を配り一人ひとりの心身の変化に気づくよう努め記録に残している。		一人ひとりの過ごし方の中でも有するちからを出せていないように思われる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や医療との連携を密に行い、本人がより良く生活出来る様に介護計画に反映させている。		遠方にいる家族にも月一回以上は、手紙や電話で近況報告及び介護計画内容をお知らせしている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない変化が生じた場合、毎日のミーティングやカンファレンスの中で現状に即した新たな計画に反映している。		必要な支援が先になる場合が見受けられる。即介護計画に表す努力が必要である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有し介護計画の見直しに活かされている		ミーティング、申し送りの中で記録の情報を伝え確認している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のその時々々の要望に応じる用意はあるが特にめだつた大きな要望はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間の行事中で必要に応じて色々な機関と協力している。		母の日・敬老会・クリスマス会などボランティアさんに来てもらっている。消防・民生委員さんとも連絡を取っている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	している。		地域のサービス事業者の方々とも連絡を取り、分からない事など発生した場合相談するなどしている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要に応じたケアマネジメント発生した場合、地域包括支援センターと協働する用意がある。運営推進委員会議にも出席して頂いている。		協働する機会・環境がない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にしながら、本人の状態に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。		家族・かかりつけ医と連絡を取り情報提供をおこない適切な医療を受けられるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医・・・ではないと思われるが、認知症に理解を示す医師がバックにしていると感じている。		職員が認知小に対してディスカッションする雰囲気があり意見交換し、支援につなげている。また法人内で研修会を行ったりしている。法人内で認知症の専門医は、いないが、必要に応じて他機関の専門医を受診している。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日の報告と週一回の医療連携により看護師が訪問状態を報告し日常の健康管理に努めている。		かかりつけの病院の看護師に気軽に相談している。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に面会をし、状態を把握している。家族とも電話などで連絡を取り合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・医師・看護師・スタッフ間で重度化した場合や終末期の場合必要に応じ会議を開き対応している。また医師より、家族へ状態の説明や助言など行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	定期的必要な時に職員全体でカンファレンスを実施 その中で医師や看護師長に助言を頂いている。		今後の変化に備えて医療連携や在総診の利用を実施（家族の了解のもと）
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えにより、混乱しないよう関係者との連携をとっている		(情報交換)書類などを早期にだしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りや、プライバシーに配慮したさりげない声かけ、記録を行っている。	利用者との信頼関係が深まるなかで、言葉かけに慣れが見られることが時々あり、朝礼などお互いに反省することがある。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	問いかけなどがあつたらその都度対応している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、利用者中心に過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容院を利用できるよう支援している。家族の方が散髪にきてくださることもある。化粧品も準備してある。	洋服も気に入ったものを着用出来るようにコミュニケーションをとりながら着ていただいている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力に合わせて出来る範囲の事をしていただいている。	台拭き・お茶いれ・野菜皮むき・箸配り・配膳・下膳など出来る所をして頂いている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的ではないが季節ごとの行事、誕生日などで梅酒、杏酒など準備してたのしんでいただいている。	日常会話のなかで食べたい物の希望がきかれたときはそれを取り入れるよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の意思表示のない方は、トイレ誘導をおこない、トイレで気持ちよく排泄が出来るように心がけている。		排泄後は、ウォシュレット、清拭タオル使用していきっぱりして頂き、清潔につとめている。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	入浴する時間帯など、希望にあわせて支援している。		その日に入る日、入らない日と御自分で決められる方もいらっしゃいます。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	一人ひとりの生活のサイクルにあわせて休息をとって頂くようつとめている。		安心して気持ちよく眠れるように、布団干し、シーツ交換を行っているまたお昼ねされるときは、室温に気をつけて気持ちよく休んでいただいている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	花見や屋外での食事、ドライブ等にお連れして気分転換を図っている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	御家族と連絡を取り、ご自身でお金を所持し自由に使えるようにしている。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	お一人で行ける方は、見守りながら希望に添うよう配慮し介助の必要な方は、状態をみながら声かけしお誘いしている。		散歩・日光浴・夕涼み・買い物などおこなっている。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	外出の機会は、多いがお一人おひとりから希望が出ることは、すくない。		希望があれば、いつでもお連れする用意はある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できるように配慮している。		手紙の希望あれば支援する用意がある。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人の訪問が合った場合職員一同心から迎え入れすぐお茶を入れるなど居心地良く支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に玄関、居室に鍵をかけることはない。門もいつでも開いている		夜間は、戸締りを確実にやっている
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中散歩される時などプライバシーに配慮しながら利用者の行動の把握に努めている		夜間も巡視を行い様子観察している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・ハイターなど専用の物置に保管しており、必要な分だけ持ち出し使用している。また持ち出したぶんは、専用の物置に収納している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々に合わせた事故防止策をおこなっている。		年2回の防災訓練を行っている。(火災、地震想定避難訓練、通報訓練、消火訓練)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時にそなえ基本的な流れをマニュアル化し、その方法をスタッフルームの壁に張り出し、すぐ対応できるようにしている。 かかりつけ医の連絡先掲示		初期対応の訓練を定期的に行うことが出来ていない
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練を行い、利用者が安全に避難できるように場所など確保してある。		常日頃、近所の方への声かけを行っている。 近所の高台にある工場のかたより避難場所として下さいと声をかけて頂いています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その時々で家族へ状況の報告、リスクについて家族に説明している。		家族会などでも、リスクについて説明をしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療連携を密にとり、毎日のバイタルチェックを参考に体調の変化や異変に努めている。又必要があれば速やかに対応している。		毎朝、協力医療機関へ連絡する体制を整えており、周知徹底の為に記録もしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方(変更等)あった場合申し送り・ミーティングなどで情報を共有し、薬の文献表をみて職員全員が把握している。		薬の管理には、2重、3重の確認体制を整えている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方には適度な運動の声かけ、また水分補給(その方の好まれる飲み物)をまめに行うように支援している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけを行い、自力で出来ない方は、スタッフが援助し清潔を保っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考え、嚥下のわるいかたには、トロミをつけて、水分・栄養が取れるようにしている。		水分量・食事量を記録に残し把握につとめている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防委員会を設置しそれぞれのマニュアルを作成し予防の為の情報共有している。		母体の医療機関から対策の指示を受け、消毒に努めています。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使い食器やフキンの完全乾燥をおこなっている。（ハイター、熱湯での消毒）		賞味期限のチェックを行い、余分なストックを置かないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門は開放し、玄関周りも花壇を置き、明るい雰囲気作りを行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けを行っている。（季節の花、行事ごとの写真の掲示）		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて利用者同士で話をする場は、あるが、一人になれる場所が居室のみになっている。		場所には、限りがあるも、本人の落ち着く場所作りに努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを持ってきて頂く事で心地よく過ごせるように環境作りに努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度、湿度の調整を状況に応じてこまめに行っている		加湿器を使用したり、エアコンの掃除を定期的に行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーでトイレ廊下に手すりがあり通路となる部分には、歩行の障害になりうる物を置かず一人ひとりがあんぜんに行動できるように配慮している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立につながる環境作りに努め、常に見守り、適切適宜援助している。		居室入り口にネームプレート、トイレ場所が分かるような目印をつけて混乱されないように心がけている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	前庭が広いのでそれをいかしている。外周も散歩コースとして入居者様もりようしている。		テントを設置し昼食を摂ったり、お茶を飲んだり、プランターの花の植え替えを行ったりしている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

さくらのお家 よしだ のんびりでは、いつも利用者の方々が日々穏やかに過ごせるよう気配り配慮しています。特に自慢・アピールするような事はあまりないですが、開所と同時に入居された方もおられ5年目となっております。5年と言う年月は、高齢からくる心身の機能低下もありどうしても出来ていたことも出来にくくなってきていますしかし利用者の方々が少しでもその人らしくもてる力を発揮でき安心した生活が送れるように職員が生き生きと仕事に誇りを持ち、また、一丸となったチームワークで援助に取り組んでいるところです。

さくらのお家よしだは、庭が広く、眺めも良く山や川、田んぼに囲まれ季節感をとても良く感じられるところです。入居時に利用者の方がよく言われる事は、”よかとこいな～”と言われることを良く耳にしています。この広く眺めのいい庭で、食事を摂ったり、運動会、夕涼み会等行い開放感を満喫して頂いております。